

おじいちやんからのおうえん米

大村市立三じょう小学校三年 有木 一花

風がふくと田んぼの緑色のじゅうたんが気

持ちよさそうにゆれる。香川のおじいちやん

の家の前は、お米の田んぼが広がっている。

水田でアメンボや小さなエビを見つけたり、

水路でお兄ちゃんや水遊びをすることは夏の

帰せいの楽しみだ。水遊びをするわたしたち

を、おじいちやんは、いつも笑顔で見守って

くれる。

おじいちやんはお米を作っている。

「米を送るけんな。ようけ食べよ。」

と言ひ長崎に住むわたしたちに毎月三十日の

お米を送らせてくれる。台所に大きな米ぶらる

があり、れいぞうこの中には、お店では見が

れないようななこせいあふれる野さいがある。

それはわたしにとつて当たり前の風けいだ。

お米や野さいづくりが大すきなおじいちやん

が、とつぜん七月になくなつた。

おじいちやんがいな香川の家はとてもし

ずかで水田はかなしそうにゆれていた。おそ

うしきが終わって家に帰りごはんを食べる時

におなかへってない。

とわたしが言うとお母さんがおにぎりを作

ってくれた。ま、白な大きなおにぎりだ。そ

のおにぎりを見ると、

「しっかりかんで、ようけ食べよ。」

おじいちゃんの声が聞こえる気がした。食べ

るとおいしいちゃんのことを思い出した。かなし

いけれど、やさしい気持ちになった。そうか、

これは、おじいちゃんからのおうえん米だ。

じいじ、今までたくさんお米や野菜さいを作

ってくれてありがとう。じいじが作ってくれ

たお米をさい後まで大切に食べて、もつと大

きくなるけん。これからは天国でお米や野菜

いを作つて、わたしをおうえんしてね。